

生涯学習講座たより

皆さん、こんにちは。厳しい暑さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？ 6月・7月に公開講座「黒田官兵衛とその時代～三英傑に関わった武将の姿～」と題して講座を行いました。当日はすべての教室を合わせて160人のお申込みがありました。今回の講座は多くの方にお越しいただき、岐阜本部や大垣本部の定員に達する状況となりました。皆さんの黒田官兵衛の関心の高さを伺うことができました。当日お越し頂きましたみなさん、本当に有難うございました。

さて今回の講座は「竹中半兵衛～乱世に生きた軍師の姿～」と題して講座を行います。竹中半兵衛は黒田官兵衛とともに羽柴秀吉を支えた武将として知られています。

半兵衛は稲葉山城乗っ取り事件などで知られていますが、秀吉とともに各地を転戦しています。近江の浅井攻めの時には、浅井長政の正室お市の方や娘たちの救出に尽力し、中国攻めでは播磨の黒田（小寺）官兵衛ともに出陣し活躍しました。半兵衛自身、「軍師」のイメージが強く、このイメージは後世に書かれた史料によってつくられたものですが、実際はどのような姿であったのか、「半兵衛の真の姿」について迫っていきたいと思います。

また、半兵衛といえば官兵衛の嫡子松寿丸（のちの長政）を救った話があります。官兵衛が毛利方に裏切った有岡城の荒木村重を説得するために尋ねますが帰還せず、裏切ったと判断した信長の命令で松寿丸は処刑されることになりました。その時半兵衛が密かに本拠地岩手（垂井町岩手）にて匿い、松寿丸は助かりました。この出来事以降、竹中家と黒田家の関係は後世まで続いていきます。二家の関係についてもご紹介いたします。

次回の講座から本格的に始まります。みなさんのお越しを心よりお待ちしております。よろしくお祈りいたします。

◇軍師とその時代
習塾「志門塾」の生涯学習
講座が岐阜市の岐阜本部
であり、社会科担当の秋
枝博士講師(38)が「黒田
官兵衛とその時代」の題
で話した「写真」秋枝さ
んはNHK大河ドラマの
登場人物を解説。現地取
材の成果も交えて2時間
にわたって講義した。
今回は無料だったが、

次回は8月29、31日に有
料で開き、題は「竹中半
兵衛」乱世に生きた軍師
の姿。会場などの問い
合わせは、志門塾生涯学
習部 ☎ 0584(74)3
0111へ。



平成 26 年 7 月 5 日「中日新聞」西濃版

次回講座のお知らせ

竹中半兵衛

～乱世に生きた軍師の姿～

【岐阜】8月29日(金) 19:30～21:30

【本荘】8月30日(土) 14:00～16:00

【大垣】8月30日(土) 19:00～21:00

8月31日(日) 14:00～16:00

【長浜】9月14日(日) 14:00～16:00

※予備日…9月13日(土) 大垣本部14:00～16:00

<講師> 秋枝 博士(志門塾 生涯学習部講師)

<受講料> 年間会員 6,480円(税込)

チケット3枚 5,400円(税込)

チケット1枚 2,160円(税込)

<場所> 岐阜 志門塾岐阜本部(岐阜シティータワー43)

本荘 志門塾本荘校(岐阜市稲荷町5-1-6)

大垣 志門塾本部3F(大垣市林町3-186-1)

長浜 志門塾長浜校(長浜市八幡中山町519-1)



竹中半兵衛重治

天文13年(1544)美濃国大御堂城(おおみどう 揖斐郡大野町)で生まれたとされ、美濃の斎藤龍興に仕えていました。しかし永禄7年(1564)に半兵衛は主君である龍興から稲葉山城を奪取し、その半年後には閑居します。その出来事から織田信長は半兵衛を家臣として登用したいと考え、羽柴秀吉を勧誘に送り込みました。

信長の家臣となった半兵衛は小谷城攻めで智略を用い、功を上げます。しかし三木城攻めの最中、体調不良を覚え一度は京都で療養をした半兵衛でしたが、再度赴いた三木城攻めの本陣で天正7年(1579)に亡くなりました。享年36歳。

次回講座の人物像



竹中半兵衛は優れた軍師として数多くの逸話を残しており、その中で竹中半兵衛が残したと言われている言葉をひとつご紹介します。

武士は名こそ惜しけれ、義のためにはいのちも惜しむべきはない。財宝など塵あくたとも思わぬ覚悟が常にあるべきである。

岡谷繁実『名将言行録』(3巻、岩波書店、昭和18年)より

【口語訳】武士は名をこそ惜しむべきで自分の身でも義のためには惜しむべきではない。ましてや、財宝などはごみのようにとるに足らないものであると思うくらいの覚悟が常に必要である。

【解説】竹中半兵衛は羽柴秀吉のもとで軍師として活躍しました。軍師として戦に向かう際には、大きな決断をすることも多かったと思います。そのようなときに大切なのは、財宝などの目に見えるものだけでなく、武士として名を重んじ、命より義を優先するという覚悟であると半兵衛は伝えています。

関連史跡の紹介



菩提山城跡 (岐阜県不破郡垂井町岩手)

竹中氏が岩手に居城を築いたきっかけは、美濃の斎藤道三と子・義龍の争いでした。道三側についた半兵衛の父・重元は道三敗死後、義龍勢に攻め込まれ大御堂城を放棄します。その後、重元は永禄元年(1558)に岩手弾正を攻略し、そこに大御堂城に替わる菩提山城を築きました。菩提山城は標高 402mもある頂上にあり、天然の要害となっています。その後、半兵衛が家督を相続し菩提山城城主となったのは永禄 3 年(1560)のことでした。



(伝)竹中半兵衛陣所跡 (兵庫県三木市)

ここは三木城攻めの際に羽柴秀吉本陣の北側の守備を担っていた陣の跡であり、この陣を任されたのは半兵衛であったと言われています。長期化していた戦いの中で半兵衛は体調を崩し、秀吉の勧めで一度は京都で療養することになります。しかし半兵衛は再びこの陣中に戻り、36年の生涯を閉じました。今その場所には三木平井山観光ぶどう園があり、その真ん中にある白い塗り塀の中に半兵衛の墓がひっそりと佇んでいます。